

《KROSS×OVER オフィシャルキックボクシングルール》

【身体の健康状態について】

- ・選手は万全のコンディションで試合に臨む努力をしなければならない。選手は試合当日、リングドクターによる健康診断の受診を義務付けられている。
- ・選手は試合前に任意で MRI 及び血液採取による HIV・肝炎といった血液媒介の感染症の抗体検査を受けることが望ましい。これは試合中の事故、負傷の応急治療のための資料として これらの検査結果を有意義に活用することを目的としている。

【セコンドについて】

- ・セコンドはアマチュアルールの場合1名のみ、プロ選手の場合は新型コロナウイルス感染防止対策の観点から当面の間は1名のみ(会長舎)とする。
- ・試合中、セコンドは自軍のコーナーから離れてはならない。
- ・ラウンド間のインターバル中、セコンドは選手に水を与えてもよい。(水以外スポーツドリンクなど不可)
- ・試合中、セコンドが自軍または相手選手に直接接触した場合、反則行為による失格の対象となる。
- ・セコンドはリングにタオル、ペットボトル、ストップウォッチ等を置く事を禁止とする。
- ・セコンドは、リングを叩いたり、ロープを触ったり、立ち上がったたり、セコンドスペースから離れて指示を出してはいけない。
- ・セコンドはタオル、水を持ってセコンドにつく事。
- ・セコンドはリングマットに水を撒いてはいけない。

【有効な技について】

試合において次の技を有効とする。

パンチ:ストレート、フック、アッパー、バックスピンプロー

キック:前蹴り、ローキック、ミドルキック、ハイキック、サイドキック、バックキック、内股への蹴り、飛び蹴り、ヒザ蹴り(首相撲の状態からのヒザ蹴りは禁止)

但し、バックブローに関しては以下の制約を設ける。

肘、及び明らかにグローブ以外の前腕部分のみがヒットしたと認識される場合には反則となる。

有効打撃ではないとの疑義が生じた場合には、一時試合を中断し、審判員が審議を行う。

明らかに有効打撃ではないと判断された場合は反則となり、相応のペナルティが科せられる。また、判断のつかない場合には偶発性によるものとし、決められた条項に則り処理する。

【反則行為について】

第1項

試合においては以下の技を反則とし、反則には「注意」、「警告」または「減点」が与えられる。レフェリーは、「注意」、「警告」に対しては口頭で指示、「減点1」「減点2」に対してはイエローカードを提示し、「失格」に対してはレッドカードを提示する。最初の「注意」のみ「注意」、2回で「警告」1となる。以後は即「警告」1が与えられる。「警告」2で「減点」1とし、1ラウンド中に「減点」が3になると「失格」となる。但し、反則に関してレフェリーが不可抗力であると判断した場合にはこの限りではない。また、反則行為が悪質なもの、あるいは相手選手に多大なダメージを与えたとレフェリーが判断した場合には、反則の宣告順位を超えていきなり減点が与えられる場合がある。

<反則の種類>

1. 頭突きによる攻撃。
2. ヒジによる攻撃。
3. 金的への攻撃(ヒザ蹴りおよびパンチは、へそよりも下への攻撃は“ローブロー”として反則を取る)。※但しこれは下腹部及び金的部分への攻撃を差す。よって、蹴りによる攻撃はもちろんのこと、手による下腹部・金的以外への攻撃(脚など)は有効と見なす。
4. レスリングや柔道などの投げ技、関節技を使うこと。
5. サミング。
6. 喉へのチョーク攻撃。
7. 相手に嘔み付く行為。
8. 倒れた相手、起き上がろうとしている相手に攻撃すること。
9. レフェリーがブレイクを命じたにも関わらず相手を攻撃すること。
10. 相手の蹴り足を掴む行為。
11. 攻撃であれ防御であれ、ロープを掴むこと。
12. レフェリーに対する、侮辱的あるいは攻撃的言動。
13. パンチによる後頭部への攻撃(後頭部とは、頭の真後ろの部分を行い、側面、耳の周りは後頭部とみなさない)。
14. 故意に相手選手をリング外に落とそうとしたとき。
15. 自分からリング外に出たとき。
16. 明らかに背後を向いた選手への攻撃。また、背後を見せた選手も戦意喪失とし、注意、警告、減点の対象となる。
17. バックブローにより、明らかに肘、あるいはグローブ以外の前腕部が当たって相手にダメージを与えた場合。
18. 顔面への膝蹴り(アマチュア及び女子のみ)
19. 過剰なワセリン塗布。

※タイオイルはプロムエタイルールを除き使用不可。(ただし会場によって禁止されている場合もある)

第2項

レフェリーが悪質であると判断した場合、即座に減点が与えられる場合もある。

第3項

再三、頭を低くして相手の懐に飛び込む行為は、バッティングを誘発するものとして注意を与える。バッティングにより選手のどちらかがカットして出血した場合、レフェリーが偶発的なものであると判断した場合には減点は発生しないが、再三頭が低くバッティングの可能性のあるものと注意を受けた選手がカットさせた場合には減点1が与えられる可能性がある。但し、レフェリーが明らかに故意、もしくは悪意があると判断した場合には減点2が与えられる。

第4項

攻撃を伴わないホールディングや技の掛け逃げが度重なり、消極的であると判断された場合、レフェリーは注意、警告、減点をとる。これに関しては、注意2で警告1、次の注意で減点1となる。なお、技の掛け逃げとは、攻撃の後すぐに相手に組み付き、または攻撃の直後に自ら倒れ込んで攻防を意図的に中断してしまう行為をいう。

第5項

選手がカウンター狙いなどで攻撃の手数が少なく消極的であると判断された場合も、注意や警告、減点の対象となり得る。

第6項

両手、もしくは片手で相手を掴んで攻撃することは全て反則とする。

第7項

掴みや組み付きなど、膠着状態を誘発する行為は一切これを禁止する。また相手の攻撃を逃れるために自分から掴み、組み付きに行く行為には、例えそれが片手であったとしても、注意や警告が与えられる。

【レフェリーについて】

レフェリーによるコール及びアクションなどレフェリーには選手の安全確保と公正なレフェリングが要求される。またレフェリーは選手及び選手のセコンドを的確に指揮し円滑な試合の進行に務めなければならない。

- a. リング上にメインレフェリー1名、リングサイドにサブレフェリー1名、本部席にジャッジ1名で試合の指揮、進行に努める。(ただし、大会によってはこの限りではない)
- b. メインレフェリーは、試合開始直後に両選手のコーナーに直接赴き、以下の事項について確認する義務を負う。ア) 規定の競技用具(グローブ、マウスピース、ファウルカップ、コスチューム、スパッツ、その他任意のプロテクター類) イ) 顔面を含む身体のいかなる部分にもオイル、グリース、ヴァセリン、または、それに類する物質を塗布していないかどうかの確認。(ただし、大会によってはこの限りではない)
- c. 試合開始の際、メインレフェリーは両選手を各コーナーから呼び寄せて向かい合わせた後、「ファイト！」のコールと明確なアクションと共に両選手及び観客に試合開始を宣言する。

- d. メインレフェリーは、リングドクターの助言を受けた主催者の指示に従い試合を一時中断する権利を有する。
- e. 主催者がリングドクターに選手の負傷状況など選手の身体的安全の確認を希望した場合、メインレフェリーは即座に両手で「T」の字を作り「タイムアウト！」のコールとともに試合と公式試合時間をストップさせる。
- f. メインレフェリーは、反則行為における偶然が故意かを判断する権利を有する。
- g. サブレフェリーは、メインレフェリーに対して助言を与えることが出来る。
- h. サブレフェリーは、何らかのアクシデントによりメインレフェリーが試合を裁けなくなった場合、速やかにリングに上がり円滑な試合進行に支障を来さないよう継続して試合を裁かなければならない。
- i. メインレフェリーのみが、何時、どのような体勢で、どのようなタイミングで両選手の動きを止めて試合を一時中断しリング外へ転落しない位置へ移動させるかに関する権限を有する。
- j. 試合終了の際、メインレフェリーは両腕を頭上で大きく広げた状態から勢いよく何回も交差させ、両選手、セコンド、観客、公式記録員に明示する。
- k. メインレフェリーは、自らのジャッジに際し、必ず規定のコール及びアクションを伴わなければならない。

【リングドクターについて】

- a. リングドクターは、格闘技に関する知識とそれに伴う傷害等に精通していることが要求される。 b. 両選手の安全を第一に考慮した診断を心がけなければならない。
- c. 試合中に診断を行う場合、選手及びセコンドに的確な負傷状況の報告と助言を与えなければならない。その際、診断結果は同時に主催者にも報告されなければならない。
- d. 選手の診断のために試合を一時中断させるよう主催者に助言する権利を有する。

【試合の形式について】

グローブ着用による両手、両脚、両膝(ルールによってはひじ打ちも可)を用いた直接打撃制試合の形式となる。

アマチュアの試合で用いるグローブは14オンス(大会の試合形式により10オンス)、

プロの場合は8オンスとなる。(80kg 以上は10オンス)

1ラウンド中のダウンはアマチュアの場合は2回、プロの場合は3回でKO負けとなる。

【決まり手について】

- ・KO(ノックアウト):相手がダウン後、10カウント以内に立ち上がりファイティングポーズを取れなかった場合。
- ・TKO(テクニカルノックアウト):どちらかの選手が明らかに不利な場合や試合続行不可能な状態になって試合を止めた場合。
- ・レフェリーストップ:どちらかの選手のダメージが深いなど、これ以上試合を続行させると危険であるとレフェリーが判断した場合。(記録上は TKO となる。)

・ギブアップ:選手本人、もしくはセコンドがこれ以上試合を続けることができないと判断しリング上にタオルを投げ入れた場合。(記録上はTKOとなる。)

・失格:相手が故意に重大な反則を犯した場合、もしくは反則を繰り返した場合。

・判定:ラウンド毎に採点をし、より多くの点を取った選手を勝者とする。

【判定基準】1.ダウン数 2.ダメージ 3.クリーンヒット 4.積極性(コントロール、アグレッシブ)

※判定基準は1⇒4の順だが、総合的に判断するものとする

・負傷判定:試合の途中で偶然のバッティングにより負傷した場合、規定のラウンドに達していればそれまでの採点で勝敗を決する。達していない場合は負傷引き分けとなる。

【レフェリーによる試合の指揮、進行、再開について】

a. 試合中のレフェリーの指示、裁定は絶対的なものであり、選手及びセコンドはこれに必ず従わなければならない。

b. 試合の一時中断

ア) 正当な攻撃によって相手選手が負傷した場合でも試合が進行されることがあるが、主催者はリングドクターの助言に基づきその負傷状況において試合の進行が困難であると判断した場合、試合を一時中断しリングドクターの診断を仰ぐことができる。

イ) 偶然、故意を問わず、反則行為により相手選手が負傷した場合、メインレフェリーは主催者の判断に基づき速やかに試合を一時中断し、リングドクターの診断を仰ぐ。選手本人とセコンドの意志が共に試合の再開、続行を希望する場合、反則行為を行った選手に対し「注意」もしくは「警告」を宣告する。

ウ) 選手本人もしくはセコンドが試合続行不可能と判断した場合、反則行為を行った選手を失格(反則負け)とし相手選手の勝利が確定する。

c. 膠着によるブレイク

ア) 両選手が膠着状態のまま何のアクションも起こさないとレフェリーが判断した場合、レフェリーは両選手にブレイクを命じる。

イ) その後にレフェリーは両選手をスタートポジションの状態に戻し、速やかに試合を再開させなければならない。

【その他注意点】

・プロ選手は大会当日、ドクターチェックを必ず受けてから試合をするものとする。

・バンテージは拳頭の部分に対するテーピングの使用は禁止となります(指と指の間は可能)。※別紙参照

・ラッシュガードなどは主催者のチェックを受け、主催者が認めた場合のみ、着用が認められる事とする。